

高次脳機能障害 支援センターのご案内



支援センターの説明

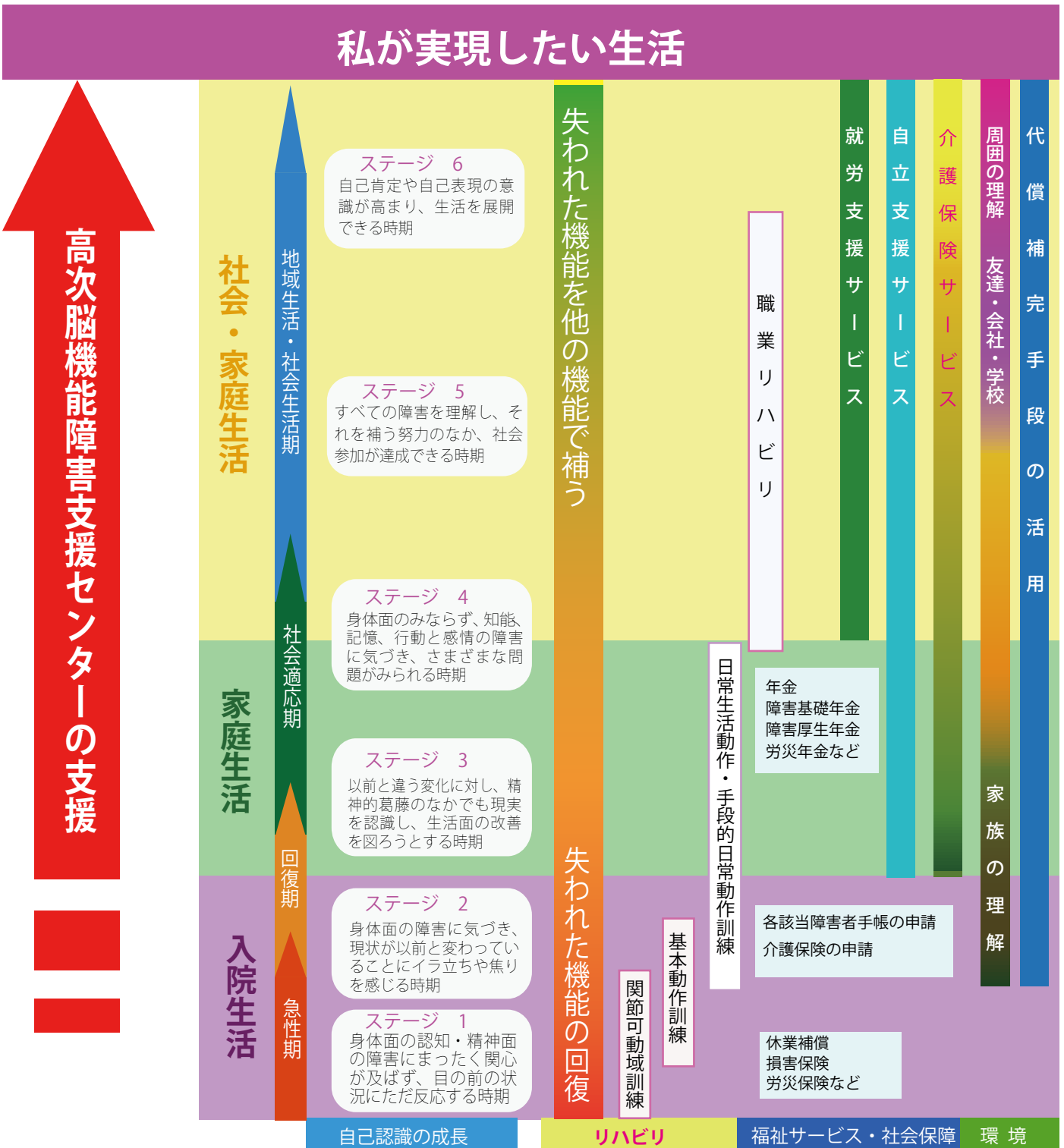
生活の様々な場になじめず、辛さを抱えている状態は、社会生活への不適応状態といえます。このような不適応状態を少しでも軽減して、その人らしい生活ができるようにするため、①その人自身の適応力を高める②周りの環境(家族や友人は最も重要な環境要素です)をその人が過ごしやすいように整える③不適応状態に陥っている人たちの実態を多くの人たちに知ってもらい社会や制度を変えていくことを目指します。

あなたはいま、どこのステージにいますか？

高次脳機能障害者は、事故や病気により病院に入院した後、いくつかの段階を経て、地域・社会生活に戻ります。それぞれの段階ごとに、支援は異なります。また、それぞれの段階において、高次脳機能障害者の障害に対する自己認識は、ステージ1～6のように変化していくのです。

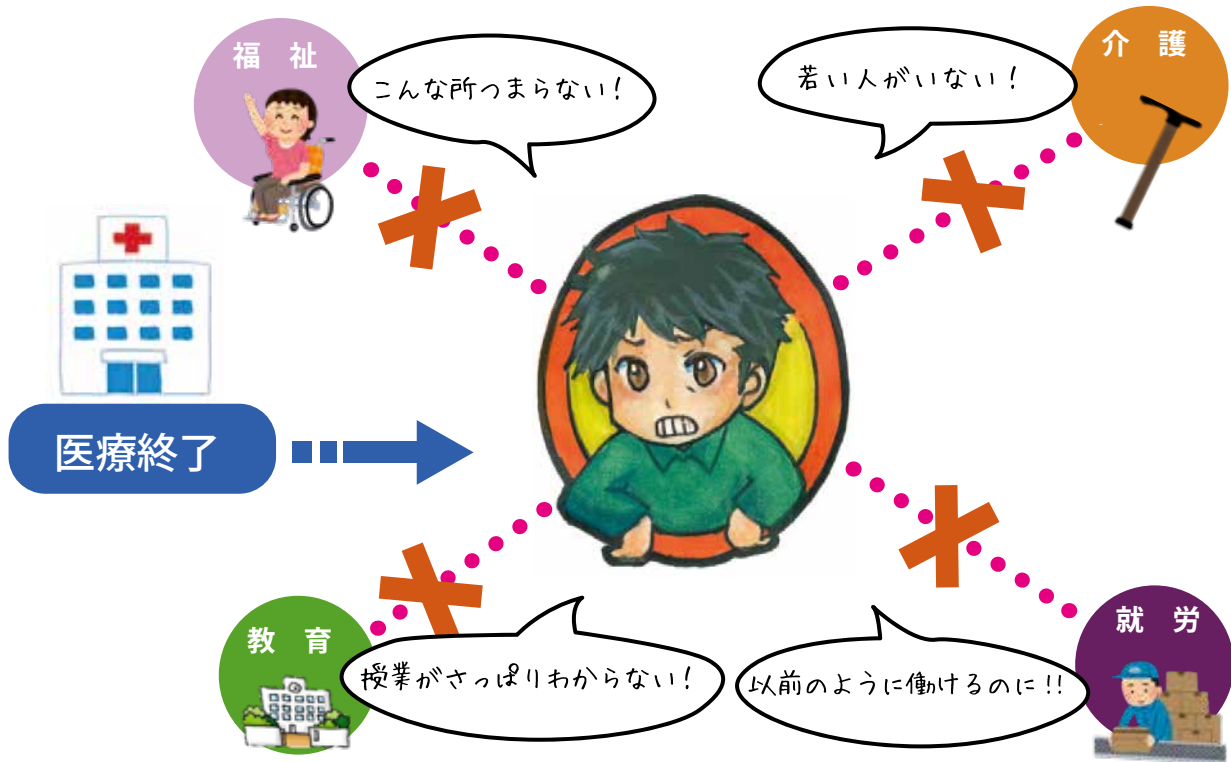
発症から社会生活の構築にむけた支援には、いろいろな制度や機関のサポートがあります。これらを活用することも、安心して地域社会で暮らすために大切なことです。

個々に応じて状況は異なり、次々と良い方向にすすんでいくわけではありませんが、中長期の支援の展望を持ったサポートは、地域生活で暮らすための環境づくりの第一歩となります。



参考資料 ■ 『高次脳機能障害と家族のケア』（渡邊修著 / 講談社α新書）

あなたは支援を上手に使えていますか？



高次脳機能障害者の抱える認知の問題

脳疲労

身のまわりの刺激や情報の処理がうまくいかず脳(神経)疲労を起こし、眠る・イライラする等が多い。単純な病院生活では気づかれない→今まで通りの家庭生活だけでは気づかない。

注意障害 (持続)

気に入ったことや短時間の作業には集中できるため、気づかれない→注意の持続が難しく、「簡単すぎる」「意味がない」といった理由で、すぐに作業放棄する。

注意障害 (切り替え)

別の作業や活動に切り替えられず、いつまでもそれまでの事にこだわる→話が発展せず同じことを繰り返す。

記憶障害

病院生活でも気づかれることは多いが、本人は問題ないと考えている→メモをみる、メモをとる等代償手段を使う必要性が意識されない。

遂行機能障害

病院生活で気づかれることはほとんどないが、退院後の日常生活場面で目立つようになる→スケジュール管理など代償手段を使う必要性が意識されない。

病識欠落

体の動きなど目に見える不自由さは認めるが、記憶の問題など目に見えない障害に気づかず、完全に治ったと思込む。

社会的行動障害

入院中は活動性が低く目立たない→活動性が上がってくると目立つようになり、暴言を吐く・ドアを壊す・他人への暴力的な行為などが特に身近な家族間で表出される。

高次脳機能障害支援センターはどんな仕事をしているの？

一人一人を
巡って

高次脳機能障害を抱えると、生活も人間関係も一変する人が多いです。こうした変化に、誰もが混乱し不安を抱きますが、相談にのってくれるところを探すのは難しいです。一人一人のお話をうかがいながら、混乱を整理し、まず第一歩を踏み出すために、ご本人のニーズにそって一緒に考えていきます。

個別相談支援

さまざまな生活のしづらさの原因を明らかにし、医療・介護・福祉・教育・就労等の関係機関と連携しながら、ご本人、ご家族の想いをもとに、目的達成に向けた道筋を一緒に考えます。

地域の活動場所を教えて欲しい

退院して家にいます。特に何かしなければならぬと言われてないのですが、このままでいいのか不安です。少しでも良くなるために通える場所を知りたい。

使える福祉サービスを知りたい

発症後、介護保険のデイサービスを利用しているけれど、40代でまだ若いこともあり、そろそろステップアップを考えたいと思っています。どのようなサービスがありますか？

経済的なことを相談したい

退職してしまい、経済的にも苦しいです。自分に合った仕事をするために、手帳を取って働く訓練を受けたいと思っています。高次脳機能障害のある人は障害年金の対象になりますか？

卒業後の進路を知りたい

子供が発症（受傷）して学校に通っています。卒業後の進路についてどうしたらよいか不安です。どんな働き方があるか知りたいです。

対応方法を知りたい

発症（受傷）後、本人が怒りっぽくなって、困っています。イライラする場面はなるべく避けるようにしていますが、どのように対処したらよいでしょうか？

事業所支援をして欲しい

近くの施設に通っているのですが、職員の方が高次脳機能障害の対応にあまり慣れていないのか、本人は行きたがりません。どこにも行かなくなってしまうのではないかと心配です。

就労支援をして欲しい

夫が復職しましたが、仕事がうまくできていないのか、ひどく疲れて帰ってきます。できれば今の会社で長く働き続けてもらいたいと思っています。このままでは難しいかもしれません。



社会適応をめざしたグループ活動

集団活動を通じて、当事者が『社会参加に必要な力』を高めることを目指したプログラム展開をしています。利用者のニーズを確認しながら、次への活動をすすめるための支援を他機関と協力して行っていきます。また、家族が良き理解者であり最も身近な支援者となれるよう情報提供と交流を通して気づきの場を提供しています。



働くためのグループ

【対象者】

復職や新規就労を希望している方。

【目的】

このグループでの体験を通して、社会に適応しながら働き続ける為に必要な力に気づいていくことを目的にしています。

つながるグループ

【対象者】

人とのコミュニケーションや集団活動が苦手な方。

【目的】

他者と共に活動することに慣れ、社会参加につながることを目的としています。

ガーデニング

【対象者】

大きな集団で行動することを試してみたい方。

【目的】

大きな集団で園芸作業を通して周りのペースに合わせたり、自分の役割を見つけたりする力をつけていきます。自分のペースを知り、疲れ方や気分の変化に気づく力を付けていきます。

レディネスグループ

【対象者】

子どもの頃に高次脳機能障害となり、現在、青年期を迎えている方。

【目的】

作業課題を通して相手の良さに気づいたり、協力しあったり、工夫したりする力を積み重ねていきます。やがて社会人として「働く」時に必要な力をつけていくことを目的としています。

青年期グループ（当事者・家族）

【対象者】

子どもの頃に高次脳機能障害となり、現在、高校大学などの学校生活を中心に過ごしている方とその家族。

【目的】

当事者：同じ年頃の当事者と出会い、お仕事体験をしたり、交流をはかります。

家族：当事者の社会参加に向けた準備として、必要な情報を知る機会としています。

家族のつどい

【対象】

高次脳機能障害支援センター利用者の家族、県内家族会の方。

【目的】

障害の知識や福祉制度を学び、ご本人にとって一番身近な「応援団」になることを目的としています。ご自分の気持ちを語り、他の方の体験談を聞いて、不安やストレスを軽減し、エネルギーをチャージすることを目指します。

地域とともに

誰もが自分に合った生活を選ぶことができ、生きがいを持ち安心して暮らせるように、市町村の支援者と連携して高次脳機能障害者の生活を支える地域づくりに貢献します。

地域支援

地域で支えている高次脳機能障害者の支援が充実するように、地域支援機関の人たちとともに具体的な支援策を考えます。

当事者支援・家族会支援

■ 家族会支援

家族会主催の交流会や集団活動のプログラム実施など、充実した家族会運営が図られるように、要請に応じて協力していきます。

■ Cafe' 輪駆

千葉リハでの支援を終了して復職されている方、これまでとは違う仕事に就いて頑張っている方などの語らいの場です。

■ ヤングカフェ

千葉リハでの支援を行い就労したことがある方で、40才未満の発症者の方々が集まり、交流する場です。

■ 交流会

これまで千葉リハを利用した方たち、その家族の交流を目的に講演会、レクリエーション等を行っています。



研修会・講演会

■ 講演会・講座

障害による生活のしにくさがあることを市民に知ってもらい、地域で暮らしやすくなるよう講演会を開催します。また、ご家族が高次脳機能障害の理解を深めることや、対応の仕方についての講座や集いを開催します。

■ 研修会

医療、福祉、保健等の関係職員を対象に、支援技術の向上や連携を図るための研修会を開催します。



広 報

■ パンフレット・チラシ発行

高次脳機能障害の理解と支援の輪を広げるために、チラシや支援ガイドを作成しています。



■ こ～じのう 掲示板

千葉リハ、国、千葉県の高次脳機能障害に関する情報を年3回発行しています。



■ 事業報告書発行

支援拠点機関実績・事業推進プロジェクト事業実績を報告書にして毎年発行しています。

あなたが街で暮らすための応援団

「事故で…」 「病気で…」 原因は様々でも、ある時を境に何かが変わってしまった。

何が変わったのか？それがよく分からない、けれどなにかへん。

退院後自宅に戻っても、迷うはずのない駅までの道がわからなくなる。

いつも行っていたスーパーで何を買えばいいのかわからない。

あなたの SOS を誰もが上手に受け止めてくれる、あなたも上手に SOS を発信する、

そんな街が日本中に溢れますように！

高次脳機能障害を持つあなたが、そして生活のしづらさを抱えているすべての人が、

伸びやかに生活できるため、応援団の一員として、私たちががんばります。

相談窓口

(千葉リハビリテーションセンター総合相談部)

043(291)1831

受付時間：月～金 9：00-17：00（祝日は除く）

まずは総合相談部にてソーシャルワーカーがお受けします。

202112 500

千葉県千葉リハビリテーションセンター



拡大図



センターへの交通アクセス

車の利用

- 千葉東金道路 大宮インターから約 10 分
- 京葉道路 松ヶ丘インターから約 25 分

電車・バスの利用

- JR 外房線『鎌取駅』北口から
- 1. 千葉中央バス のりば 2「千葉リハビリセンター」 行約 9 分
- 2. センター送迎無料循環バス のりば拡大図参照 約 7 分

高次脳機能障害支援センター

千葉県千葉リハビリテーションセンター内

〒266-0005

千葉県千葉市緑区誉田町 1 丁目 45 番 2

TEL043-291-1831(代) FAX043-291-1847

